会員の広場

“気象現象”論・補遺

根　本　順　吉

昨年8月号掲載の拙文に関連し，一会員から非公式の私信で，忠告をうけた．貴方は自分でも堂々と，批判をうけるような表現をしておきながら，そのことは全く棚上げにし，岡田先生の著作にまで及んで論じておられるのは，全くフェアー・プレイとは言えぬ．会員の中には血相をかえて，私自身の“気象現象”の乱発を教示してくれた方もあった，という．

拙文がフェアー・プレイでなく，会員に不快感を与えたことに対し，先づ私は陳謝する．

以下，その間の事情を簡単にのべる．

私は古い著作等において，不用意に“気象現象”という表現を用いたが，これが大へん不自然な表現であることに気付いてからは，口癖のように書きつづけた原稿を，校正の段階で，意識して訂正するよう心掛け，話す場合は，“大気現象”におきかえた．そして最近では“気象現象”と言わなくても，一向にさしつかえなくなり，反面，現在もなお“気象現象”が，半ば無意識的に使われている用例が，よしあしは別にして，特に目につくようになった．この段階で拙文は書かれたものである．

以上のような次第で，拙論の態度が誠に至らぬものであったことは認めなくてはならないが，広く使われている用語について，教育・啓蒙の面から，これを論ずることが全く無意味であるとは，私は思わない．

それがもし，子供の悪い癖のようなことであるのなら，私の不遜な態度にはかかわりなく改めた方がよくはないか．拙論に対する反響としては，私信などによる二，三の賛成があった外は，文章表現においても，ほとんど改められているとは思われず，“気象現象”はラジオ，テレビ等で乱発されつづけている．

かつて高橋浩一郎先生が申されたように，誤用であっても，それが一旦ひろがってしまったら，いたずらに目くじらを立て論ずることは，ほとんど無意味で，野暮なこと，なのでしょうか．

一人の年老いたOBの望むところは，共通した話題について会員諸公が論じあうことであり，それが“会員の広場”の使命でもあると思う．

(1994.2.11)

© 1994　日本気象学会